

タウンミーティング 会議録

日 時：平成19年11月26日（月） 19:00～20:35

場 所：黒部市親水の館（田家）

テーマ：1．北陸新幹線新駅周辺の整備推進について

2．新市庁舎の建設について

3．子育て・教育環境の充実について

4．消防・防災体制の充実について

参加者：48人

【事務局】

ご苦労さまです。ご案内の時刻になりましたので、ただいまから平成19年度黒部市タウンミーティングを開催させていただきます。ご案内のとおり、今年も昨年と同様、市内4つの中学校下ごとに開催する予定にしております。今回は、市民会館に引き続き2カ所目ということで、ここ親水の館で開催させていただきます。

今回のテーマは、ご案内のとおり、北陸新幹線新駅周辺の整備推進について、それと新市庁舎の建設について、それと子育て・教育環境の充実について、最後に、消防・防災体制の充実について、以上4つのテーマについてご提案申し上げたいというふうに考えております。

最初に、市長からこの4つのテーマについて基本的な考えをご説明申し上げます。この説明には約20分間かかるというふうなことを考えております。その後、意見交換に移りたいというふうに思います。事前に発言を受け付けておりまして、申し込みがあった方から優先的にご発言いただくというふうに考えております。その後、本日ご参加いただきました市民の皆様から順次ご意見を受けていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。一応、終了の時間は8時30分をめぐりというふうに考えておりますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。

なお、本日のタウンミーティングについては、受付で黄色いアンケート用紙が配られておりますが、実際に今日ご発言なされない方からも、日ごろ感じておられる素直な、率直な意見を賜りたいというふうに考えておりますので、そちらのほうにご記入いただければというふうに思います。お寄せいただいた意見につきましては、今後の市政運営の参考にさせていただくことといたしております。

それでは、堀内市長からごあいさつとテーマに関しまして基本的な考え方を述べさせていただきます。

市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】

詳細については、「市長あいさつ及び課題提起」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから会場の皆様からご意見をお受けしたいと思います。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前に続き、ご意見等を述べていただきたいと思います。

もう1つお願いがあります。このタウンミーティングではできるだけたくさんの方からご意見をちょうだいしたいというふうに考えております。ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内ということをお願いいたします。

それでは、あらかじめご発言を申し込まれた、この会場には2名の方がおられます。順次ご発言をお願いしたいというふうに思います。

まず最初に、子育て・教育環境の充実ということについて、山田にお住まいのAさん、おられますか。よろしくお願いいたします。

【Aさん】

田家山田地区のAです。よろしくお願いいたします。

子育て・教育環境のほうから提案させていただきます。まずは、子育てのほうですけれども、子供の医療費の全額無料制度を6年生まで引き上げてほしいと思います。また、親子が一緒に楽しめるコミュニケーション施設の充実ということで、ただいま学校週休2日制により親子が触れ合う時間が増えたので、それに伴う場所を公園など各地区にたくさん設けていただきたいと思います。また、黒部市にはたくさんいいところがあり、コラーレや総合体育館などたくさん施設があるんですけども、そちらに行くための交通の便をよくしていただきたいと思います。現在は、車を利用することが多いんですけども、低料金でいろいろな施設を回れるようなコミュニティーバスがあってもよいのではないのでしょうか。

また、教育環境については、黒部市立図書館の新設を希望します。これは、だれでも気軽に利用できるように機会を整備するということで、バリアフリー、勉強ができる場所、対話室などを設けるなど、あと、明るくきれいなイメージの図書館、特に現在は子供たちが本に触れ合う機会がとても少ないので、本をたくさん読む機会を多くさせたいと思います。また、私は、田家の山田地区ということもあるのですが、田家小学校の増設を提案いたします。部屋数も少なく狭いということもあり、ただいま、ゆとりある時間とともに伸び伸びと過ごせる場所での学校生活をさせてやりたいと思いますので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。お願いいたします。

【市長】

Aさん、ありがとうございます。Aさんから今5点にわたってご意見、ご要望をいただいたところであります。順次お答えを申し上げたいと思います。

まず初めに、子供の医療費の無料化ということでありまして。これまで0歳から6歳までの未就学児については、国や県の補助をいただいて無料だったわけでありまして、黒部市では、今年度から小学校3年生まで通院費を無料にしました。そして、小学校6年生までの入院費を無料にしました。このときにも、議会の皆さんをはじめ、いろいろご質問なりご意見をいただいておったんですが、小学生全部を無料、通院費も入院費も無料にしてもらえないかというご意見もたくさんあったわけでありまして、今現在、通院は3年生まで、そしてまた、入院は6年生までなんですが、これでも県内の中では一番支援が多い市であるというふうに我々は自負いたしております。

実は、私も通院と入院、6年生まで無料にすれば喜ばれるのではないかなというふうには思ったんですが、どんどんそういう要望というものは増えてまいります。小学校6年生までそれぞれ無料にしたら、次は中学生までと、義務教育いっぱい全部無料にしてくれないかと、そういう意見も実はありました。そういう中で、なぜ通院は3年生までにしたかという、今の財政状況の中でいっぺんに市の負担を増やすということはなかなか難しいということが1つ。そして、やはり皆さん方にできるだけ通院とか入院、医者にかからない努力をしてもらいたい。実は、通院という部分を調べたら、何が一番子供たち、どこにかかっているのかというところで調べたら、通院のほとんどが歯医者でした。歯医者にかかるお金を市で無料で負担するというのは、子育て支援の中ではある部分は必要なんですけど、歯医者に行かないような努力

もしてもらいたい、また、そういうことも知ってもらいたいというような思いで、今回は段階的に医療費の無料という、そういうものに取り組んだということでもあります。できるだけ医者にかからないように努力していただき、そしてまた、市もそういうところまで考えながら、こういうふうな制度をつくっているということにもご理解をいただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。

次に、親子が一緒に楽しめるコミュニティ施設の充実ということでもあります。確かに市全体の中ではそういう施設が不足をしているというふうには感じております。今、児童センターにおきましても、中央児童センターと東部児童センターの2カ所しかございません。都市型の公園もそんなに多くない状況でありますから、そういう施設についてはこれから検討していかなければならないというふうに思っております。

それと、もう一方では、それら今現在ある施設などを十分に利用してもらうために、子育てガイドというものを作成しています。子供を妊娠されてから学校に至るまで、子供に関するいろんな施設とかいろんな制度をわかりやすく理解していただいて、また利用してもらうために子育てガイドというものを作成中ですので、それらを保育所、幼稚園の保護者の皆さんをはじめ広範囲に配布し、これまで以上に利用してもらうことをまずは進めていきたいというふうに思っておりますので、またできるだけそういうところをご利用いただきたいというふうに思いますし、またそういうガイドを通して、またいろんな広報にも努めていきたいというふうに思いますので、よろしく願いを申し上げます。

次に、3点目の交通の便をよくするということでもあります。確かに路線バスの路線も少ないですし、公共交通もなかなか利用者が増えない中で、交通の空白地帯というものが随分見受けられます。我々とすれば、今、新幹線の時代を迎える中で、先ほどもちょっと言いましたが、新幹線の駅に地鉄の駅を併設する予定です。新幹線からおりたらその公共交通としての乗りかえをスムーズにする。その地鉄の駅は、実は黒部市電鉄石田駅から宇奈月温泉駅まで15カ所あります。こういう地鉄の駅が15カ所あって、現在のJRの駅が今2カ所、生地と黒部駅があるんですが、今の黒部市ほどの規模の中でこれだけの駅を持つということはなかなか珍しいのではないかとこのように思っておりますし、この公共交通のネットワークをさらに充実していきたいというふうに思っておりますし、また、逆に言ったら、駅、公共交通を育てていくには駅周辺に住んでもらう方を増やす、駅、公共交通を利用した今後のまちづくり、これが今言うコンパクトシティの考え方の基本であります。また、そうしなければどんどん分散、拡散していくと、いろんなインフラ、下水道でも水道でも、もちろん電気でも、ここは都市ガスはありませんけれども、ガスでもどんどん広げていくということになれば、インフラ整備などについてもお金がかかるということでもありますから、そのところはできるだけ公共交通の駅周辺に住んでいただいて、そしてまた、歩いて暮らせるようなこれからのまちづくりを考えていかなければならないのではないかとこのように考えております。

そういう中で、ご存じだと思いますが、ワンコイン・フリーきっぷ、500円で土日祭日は電車と路線バスが乗り放題というような取組みも、公共交通を見直そう、みんなで育ていこうというような考え方で、まちづくり協議会とか地鉄富山地方鉄道さんが協力して始められた事業でありますので、そういうところも利用していただいて、公共交通の今後をまた見ていっていただきたいと思っております。

また同時に、新幹線の開業までにはシャトルバスのような地域を循環するバスの整備なども我々は検討をしていかなければならないというふうに考えておりますので、できるだけこれからは車一辺倒な社会から公共交通を中心とした社会に切りかえていかなければならない、そういう時期に来ている。これだけ油も上がってまいりましたので、1人1台の車の生活というのはなかなか難しくなっていくのではないかとこのように思っておりますので、何よりも公共交通を皆さん方が利用してもらわないといくら整備しようと思ってもな

かなか進めることができませんので、ぜひそういうこともこれから考えていっていただきたいというふうに思います。

次に、図書館の整備であります。今現在の図書館の状況を言いますと、実は黒部市の市立図書館というのは2館体制をとっております。黒部館と宇奈月館があります。宇奈月館というところ、あまりこの周辺の方々は利用されてはおられないかもしれませんが、宇奈月館は歴史民俗資料館を兼ねた大変特徴のある図書館でありますので、ぜひ一度のぞいていただきたいなというふうに思います。あの宇奈月館は平成5年にできておりますので、まだ14年ほどしかたっておりません。そして、注目の黒部館であります、実はこれが、さっき調べてまいりました、昭和48年に建てられて、開館以来33年、大変老朽化もしておりますし、バリアフリーにもなっておりませんし、駐車場も足りないというようなところであります、先ほどから言っております総合振興計画の重点プロジェクトの中にこの図書館の新設については位置づけられております。ですから、できるだけ早く建設にこぎつけていきたいというふうに思います。図書館につきましては大変重要な課題でありまして、この図書館の充実というのがその地域の文化のパロメーターだというような考え方もありますし、また、高校生、中学生、小学生それぞれ、やはりゆっくりと勉強に取り組めるような場所をしっかりと整備するということが私も大変重要だというふうに思っておりますので、このことについてはできるだけ早く実現をしていきたいというふうに思います。

Aさんの質問の最後であります、田家小学校の新設、建て替え、または増築ということであります。おっしゃられるとおり、田家地区は子供たちが増えております。今現在も13学級あるというふうに伺っております。13学級というのは、特別支援学級も含めて13学級ありまして、来年度も大体そういう予定であります。ただ、平成21年ぐらいからは11学級ぐらいに減るのではないかという見通しをしております。今現在は耐震化もなされておられませんし、田家小学校については児童数が増えているということもあります。また、パソコン教室と図書館が一緒になっていて、たくさんの生徒が入ったらパソコンができなかつたりというような状況もあるというふうに聞いておりますし、理科室と家庭科室が兼用になっていると、かなり工夫して、今、学校施設を使っただいておことは十分理解をしておりますので、これも総合振興計画の中で学校施設の見直しということがあります。そういう中で、田家小学校というのはかなり優先的に進めていかなければならない学校だというふうに考えております。

もう一方では、全体的には、先ほども言いましたように、小学校も中学校も生徒数がかなり減少していくということと、今、11小学校、4中学校ある中で、今年度中に総合振興計画に基づいて学校教育基本計画というものが策定されます。今年度中には策定される予定であります、その中で、今後のこういう学校のあり方については、なかなか10年では実現することは難しいので、少なくとも20年ぐらいの単位の中で各学校、たくさん見直さなければならない学校があります。特に桜井中学校なんかは50年ぐらいたっただけだったので、桜井中学校などをどうするかということについては大変大きな課題です。ですから、そういうことも含めて、お金がないから、財政が厳しいからといって、いつまでも放っておくことはできませんので、まずは、今年度中にそれらを含めて、しっかりとした計画を立てて、1カ所ずつ着実に進めていくというようなことを考えておりますので、よろしく願いをいたします。

Aさんのほうからは以上であります。また何かあれば再質問をお願いしたいと思います。

【事務局】

それでは、お二人目の方、消防・防災体制の充実についてということで、荒町のBさん、おられましようか。よろしく願いいたします。

【Bさん】

荒町のBでございます。市長さん、市民の方々、ご苦労さまでございます。

私の質問の前に市長さんから私の第1点の質問に答えが出たような気もいたしますけど、改めまして私のほうから消防・防災体制の充実について4点ほど質問させていただきます。

まず、1つ目として、新消防庁舎の建設についてのお願いであります。昭和47年の竣工以来35年、老朽化が目立ち、平成7年の阪神淡路大震災、平成16年の新潟中越地震、そして今年に入りましての石川県、新潟県の隣県で頻発する地震に対し、幸いにも県内では黒部市もさしたる被害もありませんでしたが、黒部市の直下では、黒部市断層、牛首断層、魚津断層等の断層の存在が明らかになり、これらを震源とする直下型の地震に対応できる耐震構造ではなく免震構造の新消防庁舎の建設を早急に実現していただきたいと思っております。まず第1点。

次に、消防団員の確保、活動支援についてのお願いであります。近年の社会構造の変化により団員のなり手不足解消のために、提案として、市職員への消防団への入団勧誘を検討していただけないでしょうかということであります。

第3点、団員の災害出動時における企業の協力体制についてのお願いです。私も分団におります。会社員が8割と多く、昔から見ると、大工さんとか左官屋さん、それから農協の職員の方とかたくさんおられたんですが、統廃合とかそういうことで少なくなっております。それで、企業の勤務中の火災出動、災害出動が発生した場合、必ずしも出られるかといえば企業によりまちまちだと思います。昨年ですか、総務省消防庁が勤務中の消防団協力事業所表示制度というものがあったそうですが、この制度があれば、ボランティア休暇等の処置が行え、団員増につながると思います。黒部市のこの制度への取り組みについてお考えをお聞かせいただきたいと思っております。

最後に、当田家地区のことなんですが、旧田家支所に設置されている防災サイレンの取り扱いについて伺いたします。先月の農業広報のみずほに競売入札の募集が載っておりました。入札の結果は承知しておりませんが、今後、農協の手を放れた場合、移設の考えがあるか、また取り壊しなども考えられると思っておりますので、もし移設を考えておられるのなら田家屯所のほうに移設をお願いしたいなと思っております。

以上4点について、よろしく願いいたします。

【市長】

ありがとうございました。

今、消防関係について4点ほどご質問をいただきました。まず初めに、庁舎の問題につきましては先ほどお答えしたとおりであります。黒部消防庁舎と宇奈月とあるものですから、いっぺんにはできるかどうかわかりませんが、特に黒部消防庁舎につきましては、魚津断層の上にあるというようなこと、また、耐震構造になっていない、大変老朽化している、手狭になったというようないろいろなことがありますので、できるだけ早く建設をしていきたいというふうに思います。また一方で、消防の広域化ということも随分言われておりますし、また、無線のデジタル化につきましても、今後必ずしなければならぬ要件でありますので、そういうことも含めて今後検討していきたいというふうに思っております。

次に、市職員の消防団への入団勧誘を検討できないかということであります。現状は、黒部市の消防団定員が488人ですか、そのうち、今現在、団員さんが466人、定数からすれば22名ほど不足をしているのが状況であります。その中で、市の職員が実は12名おられます。旧黒部市の中ではいなかったんですが、旧宇奈月町では町の職員が団員をやっておられた方がおられますので、そういう方は引き続き団員になっておられるというふうに考えております。私は、基本的には消防活動と市の業務と兼務というのはある程度

一定の制限が必要だろうというふうに実は思っております。消防活動は大変重要であります、市の業務の中で自由に団員になるということはなかなか難しいだろうなというふうに思います。ただ、地区によっては、地区の状況とか本人の希望、考え方などが一致すれば、団員になっていただくことについては差し支えないのではないかとこのように思いますので、各地区の団員の充足の状況とか、あと、職員の中で、その地区で団員を希望されるというようなところが一致すれば、ぜひなっていていただいてもいいのではないかとこのように思います。

それから、確かに団員の皆さん方がサラリーマン化しているというか、全国的には7割、黒部市は8割おるんですかね、会社に勤めておられる方が多いということでもありますので、会社の了解をもらわないとなかなか団員にもなれないという状況であります。サイレンが鳴ったら職場を投げて出ていくわけですから、会社の理解がなければ当然ならないわけで、先ほど言われましたように、黒部市消防団の協力事業所の表示制度というものについては、黒部市も今整備をいたしております、今年度中にはきちっと整備をして、来年度からそういう表示制度、各企業にそういう協力いただいた事業所としてプレートなどを張っていただいて、企業のイメージアップなり、社会貢献に対する姿勢を示していただくことは有効であるというふうには思いますし、またもう一方では、我々も含めて各企業に消防団員になっていただくことを主な企業の皆さんにお願いをしていきたい。実際、今もういろいろ協力をお願いに回っておりますが、これまで以上に協力のお願いをしてまいりたい。そして、そういう団員の確保に努めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

もう1つは、田家支所の防災サイレンの移設についてということでもあります。農協さんが支所を廃止されて、その屋上に設立されているということでもありますので、そこを農協さんが今後利用されないとすれば、それは当然移設をしなければならないと思いますし、この消防のサイレンにつきましては、春とか秋にそういう消防の訓練もありますし、年末警戒のときも、あるいはいろんな災害があったときも、あれは拡声器機能も備わっておりますので、この地域にとっては大変重要な施設だと思っておりますので、今言われるように、消防屯所のほうに移設ができればというふうに思いますので、これから皆さん方のご意見をいただきながら進めてまいりたいというふうに考えております。よろしくお願います。

【事務局】

どうもありがとうございました。

これで、事前に発言を申し込まれた方からの発言は終わりました。

次に、本日ご参加いただいております会場の皆さんからご意見を賜りたいと思います。地区名、お名前に引き続き、ご意見を言っていただければというふうに思います。

どうぞ、どなたかおいでになりますか。

そちらの女性の方、お願いいたします。

【Cさん】

市長さん、こんばんは。石田地区のCと申します。このような場所で発言をするのはふなれなので、書いてきたものを読ませていただきます。

市長さんは、このタウンミーティングで黒部市の基本目的である「支え合い、心豊かに安心して暮らせるまち」を目指して、こうして私たちの市民の声を聞いてくださっているのだと思っています。私の子供は、今、白鷹幼稚園の年長と年少です。私たちにとってこの黒部市は、心豊かに安心して暮らせるまちとは言えないと思います。入園するときに園児が20名以下なら休園になるということは一切知らされず、も

もちろん、この幼稚園で3年幼稚園教育を受けられるものと思っていました。ところが、2カ月前の9月に突然休園の話がされ、保護者は不安、疑問を感じながら、園児募集や夏休みの預かり保育を検討して、何とか園児が増えないか努力しました。こども支援課からの説明では、少ない集団は子供たちの成長にとって望ましくない環境、黒部市には幼稚園が中央、三日市にもあるから、そちらのほうへ移ればよいというようなことも言われました。

市長さんは、前回のタウンミーティングで、保護者、何より子供たちの不安な急激な変化は避けたいとおっしゃっておられましたよね。本当に私たちはあまりにも急で、9月に初めての説明会があり、11月に4月から休園の方向ですと言われて、とても納得いきません。また、うちの幼稚園には年少で足の不自由なお友達が入園しています。その子は、ある施設で断られて、やっと白鷹に入園できたのです。現実に4月から休園になると、その子はどこにも行き場がありません。ただ1人かもしれませんが、黒部市の大切な子供だということには変わりはないですよ。

周りの環境が整ってからの休園なら保護者も多少は納得できると思うんですが、つい先日、夏休みの預かり保育について、黒部市4つの幼稚園の保護者にアンケートをとったのですが、要望が8割以上という結果になりました。預かり保育があれば幼稚園教育を受けさせたいというお母さんもいました。私たちは、この2カ月幼稚園が存続するように活動してきました。その活動の中で幼保一元の施設も大切だということがわかりました。その実現に向けてなら幼稚園の保護者には今一丸となって協力できるパワーがあると思います。今、白鷹を休園したらこの話も実現しないと思います。

そして、先ほども言いましたが、急過ぎる話で心の整理ができません。子供たちは何も悪いことはしていません。せめて自分たちの子供にふさわしい行き場所、選択する時間、周りの環境が整うまで、2年、せめて1年でもいいので時間を下さい。市長さんに人としての心があるなら、ぜひこの願いを受け入れてください。ぜひこれについて市長さんのご意見をお聞かせください。お願いします。

【市長】

ありがとうございました。

まず、幼稚園の今後の方向性については、学校教育基本計画の中でしっかりとした位置づけをすることが基本です。それは、先ほど言いましたように、来年の3月、今年度中には新しい黒部市の学校教育基本計画というものを策定中であります。まもなく、その中間報告については、実は12月の議会には中間報告をしようと思っております。そしてまた、そのことに対する皆さん方のいろんなご意見とか要望もお聞きしたいというふうに思います。それが1つの説明です。

それから、確かに幼稚園については基準というものが明確ではなかったです。保育所については、合併当時から20人を1つの基準にして休所するとか、そういうことの基準があって、今現在、休所している保育所もあります。また、実は来年度から休所する予定の保育所もあります。愛本保育所です。今年の春に20人を満たしておりませんでした。17人からスタートしました。2人や3人、私は、少なくともそれはそれとして、今後の保護者の皆さんのいろんな要望の中でもう一年様子を見させてくれということがあったので、今年は開所しております。そして、来年度の募集をしたら、それよりもまだ数名減ります。そういう中で、今、愛本保育所の保護者の皆さんには、この状況ではもう休所せざるを得ませんねということで説明をし、ご理解をいただいたところです。

それで、一方、幼稚園についてはどうなのかということについては、幼稚園については確かに基準がいまいでした。私は、まず、どういう考え方で基準をどうするのかということをはっきりさせなければならぬ。そうでなければ、今言われたように、今年の9月にやはり保育所などと同じ20人基準で、それを

満たさなかったら休園せざるを得ませんねという話は私も急激だと思っております。ですから、担当課のほうには、保護者の皆さんによく説明して、急激な変化はできない、それはよく説明をし、ご理解をいただいたところから後のやり方を考えていきたいと思えます。

それで、今、募集をして、今月の15日だったかな、募集を締め切りました。そうしましたら、今、黒部市、残念ながら4カ所しか幼稚園がないんです。大布施にある中央幼稚園、三日市にある三日市幼稚園、石田にある白鷹幼稚園と生地幼稚園、その4カ所の中で実は応募が生地幼稚園が9名でした。そして、白鷹が13名でした。その結果が出たものだから、まずはそれを保護者の皆さんに伝えて、大変厳しい状況でありますということの中で、まだ休園するということは決定しておりません。皆さん方の意見をいただいて、今月中にはまたそのことに対する説明会等が開かれると思いますが、その皆さん方の意見を踏まえて、Cさんが言われるように、市としての説明不足、あるいは急激過ぎる変化だということであれば、そういうことも踏まえて結論を出したいと思えます。

ただ、残念ながら、黒部市に幼稚園教育と保育所の保育と両方選べるのは4地区しかないわけです。そういう中で、黒部市には16地区あります。全地区の皆さんがそれに対して理解をされるかというようなことも私とすれば考えていかなければならない。ですから、まだ結論は出しておりません。あまり結論を出すのに実は時間もありませんが、結論を出した後の対応というのがありますから、まだ結論を出してありませんが、今言われるように、幼保一元化についても、今、何らか方法がとれないか、来年度から幼保一元化として、今から4カ月ほどしか時間がありませんが、何らかの幼保一元化、大変難しいことがたくさんあります。保育所が厚生労働省の管轄で厚生労働省のルール、幼稚園は文部科学省の管轄で文部科学省のルール、その保育時間帯も違う、料金も違う。また、我々とすれば、一元化をすれば、会計なんかも別々に行われなければならないし、同じ部屋で一緒に保育することも許されない。これは国のルールですから。我々とすれば、そういうルールを守りながらいろんな補助をもらったり、いろんな指導を受けたりしておりますので、それらをクリアしながらどうするか。休園するとはまだ決まっておらず、ここ1週間、10日の間には大体の方向性を示さないと、後の予定がそれぞれあると思えます。

大変厳しい状況ではありますが、皆さん方の意見をいただきながら考えていきたい。例えば2年間、2年間というのは、今いる幼稚園の子供たちが卒園するまで待ってくださいという話なんです。たとえ1人になってでも2人になってでも、私らはそこに安心して預けたのだから、卒園するまでは責任をとってください、そのとおりだと私は思います。それら全体のいろんな状況とか考え方を確認して、できるかどうかということについては、今、相談をさせていただきながら、一方的な結論は出さないうちでおりますので、ご理解をいただきたいと思えます。ただ、9人というのは、3歳児、4歳児、5歳児で、3人と6人とゼロ人。そういう状況も厳しいということだけはご理解をいただいて、少なくとも全市的に理解されるように進めていかなければならない、そしてまた、皆さん方には急激な変化はやはり好ましくないと思えますので、皆さん方とどの辺でどういう考え方でご理解いただくのかということについては、それはしっかりご相談をさせていただきたいと思えます。

【事務局】

それでは、次の方、どなたかおいでになりますか。あまりかた苦しく考えなくても結構だと思いますけれども、せっかくの機会ですので、ぜひご意見等、お聞きになりたいこと、どんなことでも結構ですが、ありましたら。

【Bさん】

これは市に聞いてもいいのかなとちょっと疑問な点もあるんですが、私は職業上大型車に乗っております。インター線を通りますと旧宇奈月町まで行くまでにあそこにたくさんのきれいなほ場の稲作、大豆をつくったり、いろんな田んぼがたくさん点在しております。観光客も観光バスでたくさん通られますね。インターを出ますと両瀬、栃屋はいいんですが、だんだん下立地内ぐらいに入りますと雑草あるいは稗とかが目立ちます。せっかく黒部米、名水の黒部とかいろんなキャッチフレーズでPRしておられますが、大変イメージダウンになるような気がいたしております。これは市長さんじゃなくて、あそこには農営組合さんがあると思いますので、ちょっとコスト上なかなか難しいのかなとも思ったりもいたしますが、何かの機会がありましたらまたお話しいただければなと思っております。

【市長】

ありがとうございました。

よく言われるご意見であります。確かに雑草とか稗みたいなものが非常に目立って、黒部米の里とすれば大変憂慮しています。議会の皆さん方からも、何とかしなくてはならないのではないかというご意見をいただきますので、担当課と農協さんと協力しながらいろいろ指導はしております。指導はしているんですが、個人の田んぼですし、大変厳しい条件の中でたくさんの土地を耕しておられて、なかなか手が回らないという状況らしいです。ただ、産業道路沿いといいですか、インター道路沿いにそういうものが目立つということについては、いつまでも放っておくわけにはいかないというふうに思いますので、指導しかできませんが、厳しく指導していきたいというふうに思いますので、よろしく願います。

【事務局】

ほかにどなたか。どんなことでも結構なんですけれども、せっかくの機会ですから。

【市長】

せっかくの機会でありますし、少し差し水をしましょうか。

22日に市民会館でタウンミーティングを行いました。活発ないろんな意見が時間オーバーになってでもまだ出ていたんですが、最初に出たのはやはり庁舎問題です。市庁舎の建設に対して3の方がそれぞれ、別々の意見を言われました。一番の皆さん方の関心は場所です、聞いておりますと。どこに建てるかということで三人三様のご意見を言われました。

せっかくですから簡単に言いますと、ちょっと順番は忘れましたが、1人目の方は、せっかく交通の拠点、これからの交流の拠点になるんだから、新幹線の駅周辺に新庁舎を建てるべきではないかという意見、それから、もう一方は、中心市街地、要は三日市の市街地の活性化を含めて市街地に、具体的に三日市小学校の跡地を中心とした場所に建てるべきだというような意見、もう1つは、山田新の宮野運動公園のところに、宮野運動公園には700台ほどの駐車場がございます。700台の駐車場を月曜日から金曜日までのウィークデーはその駐車場を市の庁舎の関係が使って、そして、土日は宮野運動公園のいろんな活動に駐車場を利用する、それは大変駐車場を有効利用する、あるいは土地を有効利用するということについてはいいのではないかということと、あのロケーション、ちょっと小高くて、黒部川扇状地が見下ろせるようなロケーションに建てるのが新しい黒部市としていいのではないか、そしてまた、新幹線の駅に近いからなおいというご意見、そういうような意見が出ました。

そこで、私はこういうようなお答えをしたんですが、先ほど言いましたように、庁舎については今後の10年間、総合振興計画の計画期間に建てようということを決めました。基本構想の重点プロジェクト

に位置づけられたんですが、これは決定です。ならば、どこにどういう規模で、どういう機能を持たせて建てるかということについては、今月から庁舎内の研究会をつくりました。どういうことを検討しなければならないか、あるいはどういうふうにこの議論を進めるかというようなことを事務的に研究して、来年度に入ったらそれに基づいて市民の皆さんの新庁舎の検討組織を立ち上げたいと思います。そこでいろいろ議論をしていただいて、今言ったようなことについて意見をまとめていただくというような進め方をしていきたい。

いろいろ意見がありますが、大事なことは、やっぱりまとめないとできない、まとめなければならないということです。ですから、どうしてそこがいいのか、その機能はどうして必要なのかというようなことについて、全市的な意思統一、合意をするということが大変大事。全部1本にはまとまらないと思いますが、過半数以上の方がそうだねというふうに言えるような場所を決めるということ。そして、もう1つは、今の財政状況の中でほんとうにできるんですかという意見、それについては、きちっと、我々とすれば、総合振興計画というのは実行性を重視するという考え方で進めていますので、これは前々から言っておりますように、予算の裏づけのあるものしか計画しておりません。ということは、市庁舎も予算の裏づけがあるわけです。庁舎基金はこれまでに15億円ほど積み立てていただいております。それにあと残り、規模によって予算はどれだけになるかわかりませんが、私らは大体これぐらいかな、これぐらいが入ったなというような想定の中で予算的にはできるという判断をしております。なおかつ、実質公債費比率、富山県で一番悪いですねと、22.2%です。そういうものは、今多くの課題を実現しながら、この年度内、計画期間、我々の予定では平成27年までには一つの目安である18%を切らせようと、そして、今の市債残高も計画期間の最終年度までには、今現在、一般会計で234億円ほどありますが、それも減らそうと、220億円ぐらいまでに減らそうと。なおかつ、今言っているような新幹線関連事業、庁舎の問題、消防庁舎の問題、図書館、学校給食センター、まだほかにも子育ての支援とか福祉の問題とかいろいろあります。それらを実現しながらも、今の財政については改善していくというようなことを想定しております。

そのためには、10年間、あんまりでこぼこをつくれません。ある意味では平準にならさないと、年間投資的には30億ほどが限度です。1年間で投資的経費に30億円程度で10年間を続けるということは大体可能ですというような想定をしております。ですから、ある年だけ50億になったり60億になったりということではできません。それをやると、さっき言ったような公債費比率みたいなものの数値をコントロールできなくなることとなりますので、30億円ぐらいに平準化する。そのためには何を優先しますかということなので、今言ったような重点課題をどういう順番で実現しますかというようなことを皆さんでいろいろ議論して、最終的には理解してもらわないと、おれはあれを絶対早くしてもらいたかったのにあれをしてもらえんなら、おれは全部反対だと言われたら、そういうことを言われたら何も進めなくなりますので、その辺は平準化してもらおう。田家小学校を早くやると言われてでも、こういう状況、それはきちっと説明します。数字も説明して、こういう状況だからもう2年延ばしてよとか、もう3年延ばしてもらえれば何とか田家小学校の改築みたいなことはできます、そういうようなことは皆さんと相談しながら進めなければならないんだろうなというふうに思います。ですから、そこをきちっといろんな点で議論して、皆さん方に理解をしていただければ、大体今言っている重点プロジェクト、実は基本構想の重点プロジェクトというのは53あります。そして、先ほど3つの目標、そして6つのまちづくり方針と言いました。6つのまちづくり方針の次には37の施策があって、その後、事業メニューが256あって、それに個別事業メニューが610あるんです。10年間で個別事業メニュー610、これを実現してしまおう、それぞれ大切です。農業の問題も大変大きな転換期を迎えておりますし、子育てのことも、教育のことも、それぞれどれをこの10年間、例えば新幹線関連を優先しないといけないから、ほかはちょっと待つてよということ、これはできません。

それぞれ進めなければならないわけでありますので、610もある個別事業メニューをどう整理するかというのが今の総合振興計画の48名の市民の皆さんの審議会で議論をされて、今月中には、もう4、5日しかありませんが、それが決定するという事です。前期だけですけど、5年間の分については決定です。

ですから、お願いしたいのは、ここに、総合振興計画に位置づけのないものについては、その後言われてもなかなか難しくなります。今、大変たくさんの事業をやらなければならない事業と大事な時期、合併した後の一体感の醸成と新幹線関連というものをどうしても優先的にやらなければならない、それらとあわせてほかのものをどうするかということについて、今悩んでいる議論をしているわけですから、この田家地区とか石田地区、東布施地区で、こういうことがほんとうはあったけどというようなことがあるのであれば、早く担当課なりに相談をしてご意見をいただければ、昔のように陳情陳情で後から頼めば何とかなると、これはありません。

ですから、こういう場でいろんな意見を言っていたとかがほんとうに大事になってまいりますので、それぞれ変化があつて状況に応じてやらなければならないものは当然やるんですが、100%がちんがちんに固めるわけではないんですが、大きな事業については今の我々の計画の中に入れておいてもらわなければ、なかなか議会の皆さんをはじめ同意を得ることが難しくなる、そういうふうな状況でありますので、ぜひその点もご理解をいただきたいと思つています。ここまで言ったら何かご意見はありませんか。

【事務局】

ただいま市長から懇切丁寧な説明があつたわけですが、会場の皆さん、これをお聞きになられて何かありませんか。

後ろの男性の方、よろしくお願ひいたします。ご住所とお名前の後、発言をお願いします。

【Dさん】

田家地区のDです。

田家地区のことを毎年振興会及びいろんな件で重点要望事項として市長に提出してあると思つています。これについての回答といひましようか、方向性をしっかり書面で残していただきたいなというふうに思つているわけですね。書面で残すということは約束をしたというふうに思つてはすけれども、口約束であつては非常に寂しい思ひをするというふうに思つております。これも昨年、私、町内会長を2年間やつて感じたことでもありますので、今年から町内会長、振興会は交代しましたけれども、いろんな要望が重点として出ているということは、それだけ深刻な要望であるというふうに受けとめていただきたい。そういう要望が田家から出ているのかなということを知らない人もいるかもしれせん。

それと、私、鏡野地区といつて非常に寂しいところに住んでいるわけですが、毎回、県道、いわゆる田家中山線が非常に狭くて危険な箇所がたくさんあるというふうに聞いています。特に冬場は非常に、用水に転落した車もあります。毎年何台かはひっくり返つております。幸いにも事故的なことは問われておりせんけれども、やはり黒部は山と海のつながりが大事だといふふうに聞いておりますので、その点のことについてもしっかり検討を願ひたいといふふうに思つておりますので、よろしくお願ひします。

【市長】

今ほどの地区要望については、総合振興計画で重点プロジェクトとか重点課題、あるいは個別事業メニューとかといひいろいろ言つてはすんですが、それらとあわせて、それが地区の要望に入つていたところもあると思つてはすんですが、地区の要望といひのはほとんど入つてはせん。ですから、これらの総合振興計画で計

画している黒部市全体のための計画と各地区の要望というのは兼ねてやるということが大変重要です。ただ、昨年、16地区から382件の重点要望が出ました。今年、こういう全体のことやらなければならない大事な時期だから、地区でよく検討して要望を絞ってきてくださいという願いをしたら、430に増えました。16地区で430です。ちょっと端数は忘れましたが、要は重点要望が50件ほど増えたんです。そこで、各16地区で平均すれば27、8になるんですか、430だとすれば。各地区で昨年382件の要望、18年度に受けて、今年の予算で何らかお答えし、実現に向けて動き出したのが4分の1です。4分の1しか動いていません。ですから、各地区で要望を出されたら、各地区で五、六件ですか、1年間に実現に向けて、その年で終わるものもありますし、数年かけて実現するものもありますし、すぐにはできないで、調査研究して図面なんかをつくらなければならない、そういう、とにかく実現に動き出したというものが約4分の1。ですから、各地区でも当然あれもこれもと言われれば全部、地区の要望とすればもちろん要望なんですけど、その点は少なくとも要望を出していただいたら、4、5年で実現できるような要望に絞っていただきたいと思います。

そういうふうに絞られている地区もありますし、そうではなくて、とにかく言うとおかないと何も無い、とにかく言うだけ全部言うおけとって、たくさんどころもあります。地区によっても、いろんな自然環境の違いもありますから、一概に平均的な数だけを言うことはできませんが、ぜひ地区の中でも優先順位を絞っていただいて、地区で例えば20要望するとすれば、その中で何を優先するのかということに優先順位をこちらでつけてもらいたいと思うぐらいでありますので、その辺の議論も、こっちのはやった、あっちのは後やというのはなかなか地区でまとめづらいから、とにかく考えられることは全部出そうというのが大体の地区の考え方だと思うんですが、ぜひこういう大事な、黒部市としても大きな転換期の時代ですから、地区要望についても議論をいただいて絞っていただきたい。少なくとも4分の1程度ずつは前に進めようと考えておりますので、総合振興計画に書かれている重点プロジェクトだけを進めようなんてことではありませんので、そういう点もご理解をいただきたいと思います。

あとの県道田家中山線についても、これは県道でありますので、県にいろいろ要望はしています。ただ、県も先ほどからの黒部市と同じです。今、県の予算で、この新川地区で一番予算がついているのは黒部市だと思います。予算的には圧倒的に黒部市が多いです。ほかの市とか町とかと比べたら。入善土木事務所管内だったら黒部市が圧倒的に多いと思います。1つは、黒瀬川の改修、大変大きな何十億円という事業を行っていただいておりますし、例えば背骨道路、県道の8号線から新幹線の駅までは県道として今整備していただいておりますので、県の予算からすれば黒部について、そこだけではありませんけど、ほかにも県の予算でやっていただいているものはたくさんありますが、県とすればかなり優先して黒部市について力を入れているという思いでおられますし、また、県も財政的には新幹線の事業が進めば進むほど県の負担というものは大きくなっていますので、来年度あたり、どのように予算が組まれるのかまだわかりませんが、大変厳しい状況の中で黒部市が県にお願いする、要望する部分についてもかなり絞ったお願いをしていかなければならないのではないかとこのように思いますので、県道田家中山線については牧場へのアクセス道路でもありますので、我々も非常に気にはかかっておりますが、その辺の県との調整をしながら進めていきたいというふうに思います。

【事務局】

Dさん、よろしいでしょうか。

【Dさん】

よろしいでしょうかと言われれば、ただ、要望事項が書面に残せないというのはちょっと寂しい思いがしますね。残せるものと残せないものがあるというふうにはわかります。ただ、いついつまでにしたいとか、そのように陳情していますとかという、そういうことが書面で残してもらえればありがたいなど、約束ができたという安心感ができるんじゃないかなというふうに思います。

【市長】

それぞれの要望に対する回答を書面に残すということについては問題はないと思います。そのかわり、記事になって残ると大変厳しい答えにならざるを得ないというふうに思いますので、やはりかなり大きな事業もたくさん要望の中に入っていて、今はそういうことは難しいのではないんですか、これから考えて検討しましょうよ、研究しましょうよというような答えというのはいくつもあります。それらを文書で見通しが立たないというふうになるとそれはお互いに困るだろうなと思いますので、その辺、どういう表現にするのかというようなことも含めて、文書で答えを残すということについては構わないと私は思いますので、今現在、ほかの団体から要望をいただいたときはほとんど文書で回答していますので、ですから、地区の皆さんの要望についても文書で回答するということについては、事務局が大変ですけど、そのほうがお互いに、役員の皆さんがかわたりしていますから、前回の回答などを見るにはいいことだというふうに思いますので、ご苦勞をおかけしますが、回答を残すように努力してください。

【事務局】

若干時間があるわけですが、ほかにご意見のある方。

これまでいろんな意見をいただきました。予定された時刻より少しあるわけですが、以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思います。

それでは、閉会にあたり、堀内市長から本日お集まりいただいた皆様へのお礼も含めましてごあいさつ申し上げます。

【市長】

大変お疲れのところをこのように熱心にお集まりいただきまして、心から感謝申し上げたいと思います。先ほども申しましたが、やはり市の状況とか考え方とか、そういうものをお互いに共有するというのが大変重要です。皆さん方におかれまして、各分野においていろんな悩みとか心配事を持っておられると思います。それらを市としてどのように考えているのか、どういう状況であるのかということをお互い状況を確認して、そしてまた、いろんな段階を踏まなければならないことはたくさんありますが、お互いに理解と協力をしながらそれぞれ進めていくということが大事だと思います。

そういう中で、若いお母さん方も何人も来ておられますので、行政サービスといいますか、市の仕事といいますか、そういうものがどんどん社会的には増えております。なぜなら、核家族化が進んだ、そしてまた、地域との連帯感、かかわりが薄くなってきた、そういう中で、昔はそこまでしなかったんだけど、最近はそういう状況が増えてきた。例えば、子育てについても、少なくとも私は家庭で、2歳でも3歳でも子供の感情が一番発達するまでは、ほんとうは親子で一緒にいるということは大変重要だろうと思います。ただ、いろんな状況が厳しい中でそうできないとすれば、私らは0歳児でも、あるいは延長保育も一時保育も、あるいは年末年始、病後児保育、ほとんどしています。要はどうなのかというと、365日24時間いろんな状況であっても、そういう子供を預けられる状況にしていかなければならないというのは、世の中の社会の状況の変化の中でそれは理解しています。でも、ほんとうにそれが親子関係にとっていい

のでしょうかということはまた一方ではあります。どういってお手伝いをすればいいのかということは、やはりお互いに考えていかなければならない。いろんなニーズが増えていくことは確かです。それを行政としての役割、あるいは家族、あるいはいろんな支援、ボランティア団体とかの役割、そういうものをすべて、今は企業も含めて、企業も子育てに対するいろんな支援もしておられます。私どもも、例えば市民病院には院内託児所を設けております。それは、看護師さんとか女医さんに働いていただける環境のために病院内にそういう場所も設けております。そういう中で、やはり将来の子供たち、あるいは家族のきずなとかそういうことを考える上でどうあるべきかということも一方では考えながら、お互いやれるところを一生懸命やっていかなければならないのではないかとこのように思います。ですから、こういう場に来て、先ほどから熱心に意見をいただくということは、私はありがたいことだということに思っておりますので、厳しい中でも最大限やれることはやっぴこうというふうに思います。

それから、この総合振興計画には今後の大きな課題がたくさんあります。この中で意見をまとめるということが大変重要です。どの事業を見てでも大変大きな事業がありまして、意見をまとめるということが非常に大事です。いろいろご意見を出していただいて、議論をしてでもいいんですが、最後は1つの意見にまとめなければそれを実現するということはできなくなりますので、お互いにしっかりとした議論の協議の場に出ていただくということが大変大事だということに思っています。ぜひこれからもこういう場、あるいは地区の振興会なり町内の役員会なりでもいいんですが、そういう場に出ていただいて、役員の方を通してまた行政のほう、我々のほうに言っていただくということも大切であります。お互いにキャッチボールをしないと、市、我々だけが一方的にこうしますと言ったら、それはなかなか決まらないんです。お互いにいろんな状況を理解して、それならば、いろいろある結果の考え方があるときに、ならそれに決めようということを決めてもらわないと、それを決めるのは、皆さん方の意見を大切に決めていかなければならないとかなかなか実現することは難しくなりますので、大変大事な時期でもありますし、先ほどから言いますように、10年間の中で着実にそれぞれの施策を実現しなければならないと思っておりますので、ぜひこれからも、いろいろご意見を出していただき、また忌憚のない協議をさせていただきをお願い申し上げます。閉会の言葉にさせていただきたいと思っております。

本日は大変ご苦労さんでした。

事務局

以上をもちまして閉会とさせていただきます。

皆様方には、お忘れ物のないようご確認いただきたいと思います。また、黄色いアンケート用紙につきましては、ご記入の上、出口の係の者にお渡しいただければというふうに思います。

どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

了